

金杉台中学校に関する保護者説明会

資料

平成30年11月10日 午前9時30分から
金杉台中学校 体育館

船橋市教育委員会 教育総務課・学務課

本日の流れ(次第)

1. 開会

9時30分

2. 金杉台中学校について説明

9時35分～10時 (約25分)

- (1) 金杉台中学校の現状について
- (2) 国の「適正規模・適正配置等に関する手引」について
- (3) 市の「学校規模・学校配置に関する基本方針」について
- (4) 「金杉台中学校の今後を考える会」について
- (5) 教育委員会の考え

3. 質疑応答・意見交換

10時00分～10時50分 (約50分)

4. 閉会

11時

配付いたしました『ご意見等記入用紙』の記入にご協力ください。
お帰りの際に出口付近の回収箱にお入れください。

保護者説明会開催の主旨

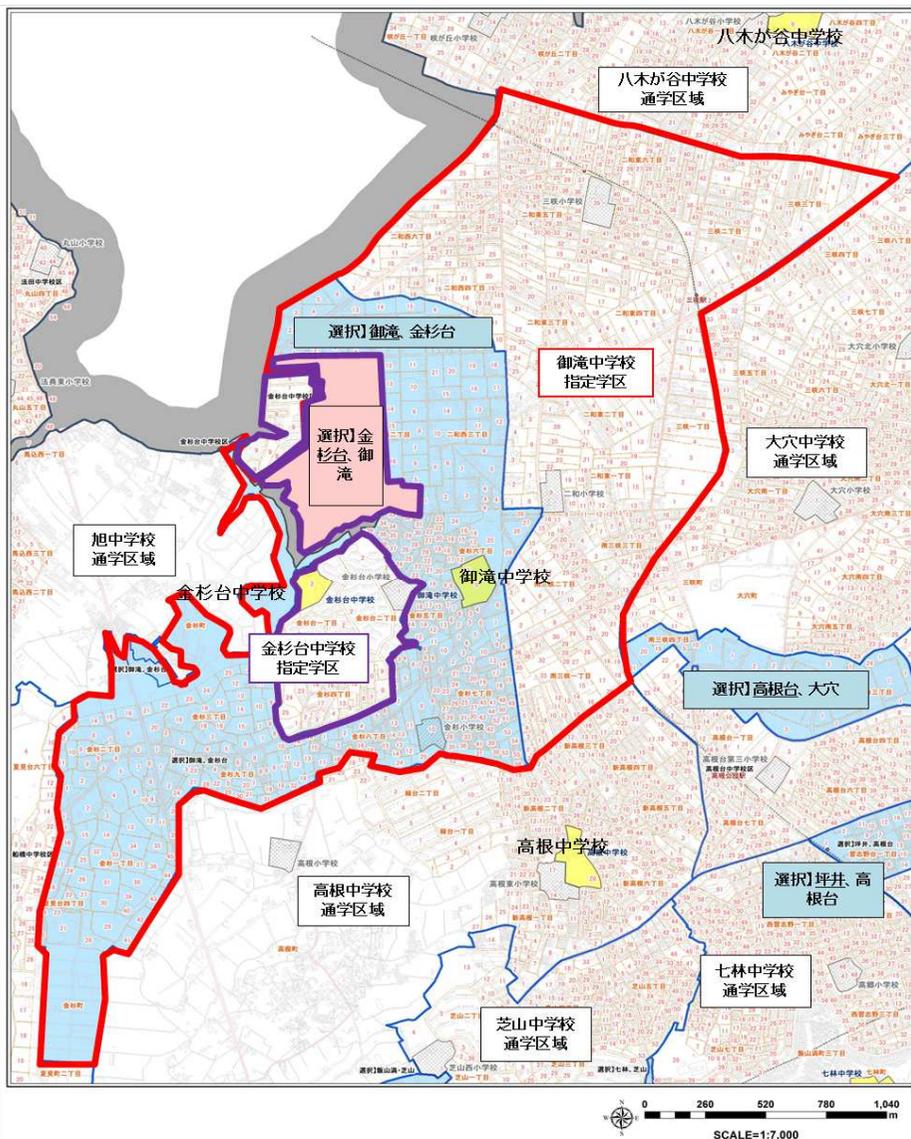
金杉台中学校の現状と学校規模・学校配置の
適正化の必要性を説明

対応策の検討についてこれまでの経過を説明

保護者の皆様から広くご意見をいただく

金杉台中学校の現状：現在の通学区域

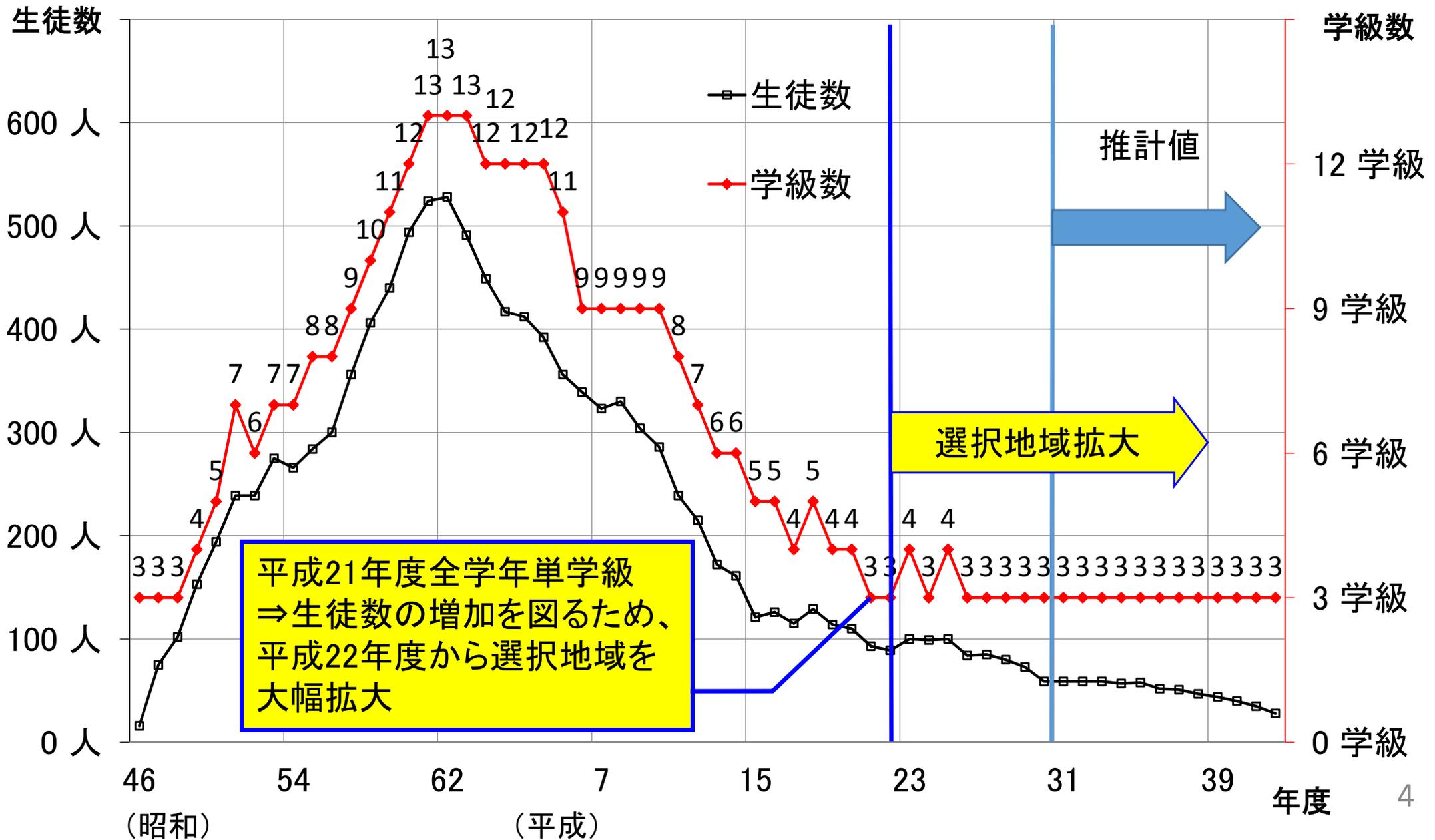
現在の通学区域について
詳しくは、別冊参考資料P.2
をご覧ください



※用語の説明

通学区域 (学区)	指定学区	通学校を指定する 地域
	選択地域	指定された通学校以外に 選択できる学校がある地域

金杉台中学校の現状：学級数・生徒数の推移と今後の推計



「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」 文部科学省（平成27年1月27日）

国の学校規模の標準

学級数の標準	小・中学校 12～18学級 ※学校教育法施行規則 第41条及び第79条
大規模校	小・中学校 25学級以上
過大規模校	小・中学校 31学級以上

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」

学級数が少ないことによる学校運営上の課題

- ・クラス替えができない
- ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ・部活動の種類が限定される
- ・集団活動・行事の効果が下がる
- ・男女比の偏りが生じやすい
- ・集団学習(体育科の球技や音楽科の合唱・合奏)に制約が生じる など

望ましい学級数の考え方

	少なくとも必要な学級数	望ましい学級数
小学校	1学年1学級以上 (6学級以上)	1学年2学級以上 (12学級以上)
中学校	1学年2学級以上 (6学級以上)	9学級以上

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

本市の学校規模の標準

本市では都市部であるという地理的条件を考慮
小・中学校ともに**標準規模は12～24学級**とする

標準規模の中学校において期待される効果の例

- ・効果的なクラス替えが可能
- ・学年内での課題別指導や個に応じた指導の充実を図ることができる
- ・より多くの部活動を設置でき、生徒が選択できる
- ・各教科において複数名の教科担当者が配置できるなど、組織的な教科経営や生徒指導がしやすくなる
- ・切磋琢磨する機会を増やし、社会性を育むことができる

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

市の学校規模の分類(中学校)

過小規模校	2学級以下	全学年に学級を作ることができないため、教育課程の編成・実施に際し、特別な配慮が必要とされる規模の学校
小規模校	3～11学級	各学年の学級数が少なく、教育課程の編成・実施に際し、配慮を要する規模の学校
標準規模校	12～24学級	教育課程の編成・実施に際し、標準と考えられる規模の学校
大規模校	25～30学級	各学年の学級数がやや多く、教育課程の編成・実施に際し、配慮を要する規模の学校
過大規模校	31学級以上	各学年の学級数が多く、教育課程の編成・実施に際し、特別な配慮が必要とされる規模の学校

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」

適正規模化に向けた基本方針(中学校)

小規模校

基本方針

3～11学級

推計において、

今後、過小規模となることが継続的に見込まれる場合、単学級の学年が継続的に発生することが予想される場合、または複数の過小・小規模校が隣接している場合

⇒通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始める



金杉台中学校について望ましい対応策の検討を始める

船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の概要

目的

全学年単学級の状況が継続すると予想される金杉台中学校の教育環境の充実のため、市の基本方針に基づき、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について意見交換を行う

構成

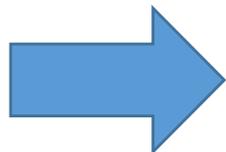
金杉台中学校と金杉台小学校の学校評議員とPTA役員 of 代表者（各校それぞれ2人程度）、金杉台中学校校長、金杉台小学校校長、教育委員会事務局管理部長、教育総務課長、学務課長

開催

第1回：平成30年2月

第2回：平成30年7月

第3回：平成30年8月



金杉台中学校の今後を考える会の概要を「考える会ニュース」としてまとめ発行

第1回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会 主な意見

小中一貫教育

- ・小中一貫校等で学校の魅力を高めたらどうか
- ・金杉台小学校に金杉台中学校を移して一体化する

通学区域の変更

- ・金杉台中の選択地域を拡大できないか
- ・選択地域をなくし、金杉台中の通学区域を固定してほしい
など、通学区域を変更して、生徒を増やせないか

存続

- ・小規模校の良さや少人数のメリットを感じて金杉台中に入る子もいる

統合

- ・中学校はなくなってほしくないが、学級数が多いほうが友達もたくさんでき、子供たちにとって良いのではないか

意見はおおむね4つに集約される

第2回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

小中一貫教育について

◇研究の経過(平成17年度～小中連携プロジェクト⇒平成24年度 研究報告書)

- ・小中一貫教育校(いわゆる現在の「義務教育学校」に近い)は設置しない

◇金杉台小・中学校における施設一体化を検討

- ・機能を移しきれず、施設面で十分な教育環境を確保できない

意見

- ・中学校をなくすのではなく、これまでの金杉台小との連携教育を大事にしてほしい
- ・金杉台中学校の問題を小中連携・一貫教育のみで考えていくのは困難

第2回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

通学区域の変更について

通学区域を変更して、金杉台中の生徒を増やせないか

意見

➡ ①～④の通学区域変更案をシミュレーション

①通学区域を広げる

御滝中と金杉台中の選択地域の一部
⇒金杉台中の指定学区に変更

②通学区域を広げる

御滝中と金杉台中の選択地域の一部
＋旭中の通学区域の一部
⇒金杉台中の指定学区に変更

③選択地域を広げる

御滝中の通学区域全体
⇒御滝中と金杉台中の選択地域に変更

④金杉台小・中の通学区域を合わせる

金杉台小の指定学区全体
⇒金杉台中の指定学区に変更

➡ ①～④の通学区域変更案とも一時的には金杉台中学校の生徒は増えるが、推計可能なこの先12年以内に全学年単学級に戻る

第2回・第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

存続について

意見

- ・小規模校の良さがある
- ・小規模校では手厚い教育を受けられる
- ・金杉台中を残すことはできないか
- ・金杉台中では人数が少ないなりに、大人数では経験できなかったこともできる

小規模校の課題
が継続する

存続に向けて…

- ・今年度、金杉台中でバスケットボール同好会ができ、子供の意見を聞く学校側の姿勢に子供たちは期待している。学校側の動きが重要。
- ・連携教育の魅力や、自然教育を特徴づけるなど、魅力ある学校づくりで、選択地域から金杉台中を選んでもらい生徒を増やせないか
- ・子供たちが行きたいという学校の中身や、個々を大事にしてくれる先生の力量で、金杉台中に行きたいと思う人が増えるのではないか

意見

第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

統合について 金杉台中学校の通学区域と周辺校との関係

学校名	現学級数	通学距離	地理的要因	小・中学校のつながり
御滝 中学校	21 学級	一部同程度だが、基本的には遠くなる	御滝中学校の通学区域に包含されている	金杉台小学校の一部の児童は入学する
旭 中学校	20 学級	遠くなる	旭中学校と金杉台中学校の通学区域の間に馬込霊園が位置する	金杉台小学校から基本的に入学しない
高根 中学校	11 学級	遠くなる	仮に統合した場合、飛び地の通学区域となる	金杉台小学校から基本的に入学しない

第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

統合について 金杉台中学校と御滝中学校の推計

※ ○数字は特別支援学級

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
金杉台中	30	3	59
	31	3	59
	32	3	59
	33	3	59
	34	3	57
	35	3	58
	36	3	52
	37	3	51
	38	3	47
	39	3	44
	40	3	40
	41	3	35
	42	3	28

+

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
御滝中	30	② 21	⑨ 781
	31	24	832
	32	26	889
	33	27	919
	34	27	927
	35	26	930
	36	27	916
	37	25	876
	38	24	839
	39	24	798
	40	22	740
	41	19	666
	42	18	628

第3回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

金杉台中と御滝中の推計を合算

校名	年度	合計	
		学級数	生徒数
金杉台中	30	② 24	⑨ 840
	31	25	891
	32	27	948
	33	28	978
	34	28	984
	35	28	988
	36	27	968
+			
御滝中	37	27	927
	38	26	886
	39	24	842
	40	22	780
	41	20	701
	42	20	656

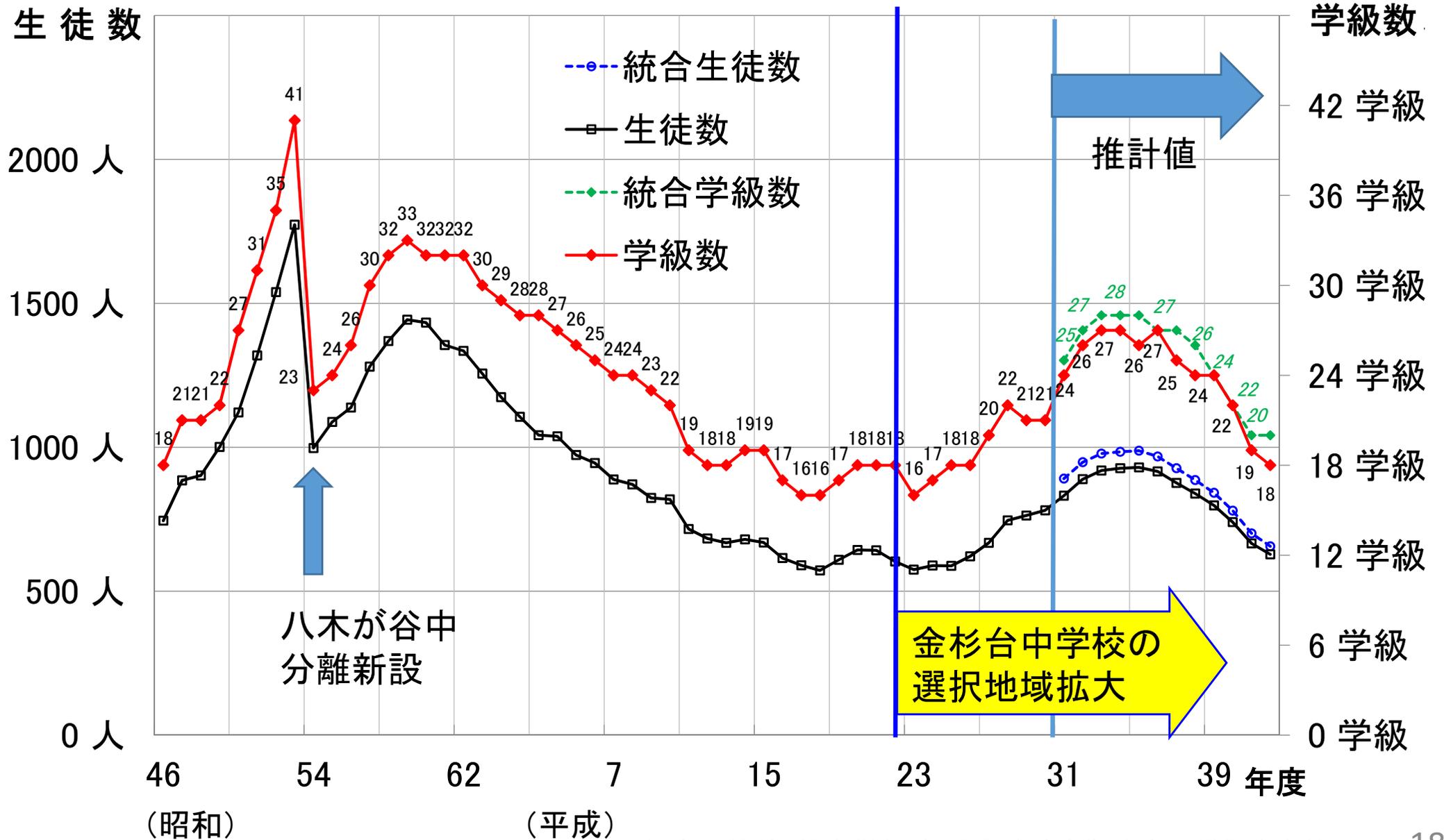
統合について

意見

- ・客観的に見て、子供の立場に立てば、やはり生徒数の多い学校に行くべきで、統合はありきだと思う
- ・義務教育なので、同じ教育環境を与えてあげたい。小さな学校で部活動も十分にできないところや、いろいろな人と付き合えない状態よりも、多様性のある人間集団となる環境を早く作ってあげたい。

※ ○数字は特別支援学級

参考：御滝中学校及びの学級数・生徒数の推移と今後の推計



金杉台中学校の今後の対応策についての教育委員会の考え

考える会の意見を検証

- ・小中一貫教育校の設置⇒通学区域が複雑なため連携教育を継続
施設一体化では十分な教育環境を確保できない
- ・通学区域(学区)の見直しにより生徒数を増やす対応策
⇒効果が一時的であると考えられる

教育環境の充実のためには、統合が望ましいと考える

- ・統合決定の時期、統合の時期は今後の検討事項
- ・統合する場合、準備・課題整理等のため準備検討組織の立ち上げを想定

説明会について

平成30年11月10日 本日の説明会

金杉台中学校・金杉台小学校の保護者の皆様に説明

今後の説明会

対象を地域の皆様にも拡大し、
「地域説明会」を開催していきます

お問い合わせ先

船橋市教育委員会 教育総務課 企画係

〒273-8501

船橋市湊町2-10-25

TEL:047-436-2802 FAX:047-436-2808

MAIL:kyosomu@city.funabashi.lg.jp

◆船橋市ホームページ◆

「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針について」

<http://www.city.funabashi.lg.jp/kodomo/keikaku/002/p055056.html>